第 121 号

小網代の森と干潟を守る会

小網代 森と干潟つうしん

モリちゃんとガタくん干潟デビュー

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表　高橋 伸和　　E-mail: info@koajiro-higata.com
URL: http://www.koairo-higata.com
年会費：一般会員￥1000　賛助会員￥5000（入会金不要 7月～6月）
郵便振替： 00260-4-21569　コアジロノモリトヒガタヲマモルカイ

第 107 回 自然観察＆クリーン

小網代の森と干潟を守る会の第1回目（小網代の森を守る会から通算 107 回目）の定例観察会が12月３日（日）に予定されましたが、生憎の大雨で特に新しい会員の方の参加もありませんでしたので自然観察＆クリーンは取りやめとしました。

そこで、これまでも当日雨の場合、大概何人か三崎口駅に来てしまう方がいるので、その都度、参加者で相談のうえ、予定を変更して何らかのことをしてきました。

今回もスタッフが４人集まりましたので、相談の結果、もしかしたら雨が止むかもしれないと、直ぐには森や干潟に入らず、三浦市内の陶芸体験（Mさんの紹介）で様子をみようということになりました。

Mさん以外、陶芸は初めてでしたので、まったくの初歩から指導いただき午後３時頃まで無我夢中で茶碗や皿、置物として来年の干支である龍（実は小網代の森は上から見ると龍の形をしている）作りの体験をしました。

その後、ふと窓を開けてみると、すっかり雨があがっていたので取り急ぎ、引橋から小網代の森の周囲コース（市道に沿って）を干潟まで歩いてみました。

内心は、赤や黄色の紅葉に期待をして行ったのですが、今秋は 9～10 月の台風などの影響で葉が揉まれ、落ち始めており、ここ数日の急激な寒さで、ほんの薄ら色づいてはいたものの全然ダメでした。それでも途中、ワレモコウに出会えたし、干潟では、マガモが 20 数羽戯れ、オオタカが樹上にとまり、おおきなミサゴが頭上をサワサワと飛んで行ったりして、雨が降ったおかげで、陶芸という貴重な体験もでき、思いもかけない楽しい一日を過ごしました。

2011 年 12 月 3 日（土）

文・写真：鈴木清市

会員限定イベント

筑波大学　田村憲司先生講演会
「土壌中のセシウムの挙動と植物、作物に与える影響」

春の原発事故以来、瑣末なことにも、つい不安を感じることが増えませんか？　安全か、そうでないかを決めるためには、私たちが、自分自身で考えて、主体的に行動していくことが大事ですね。他人まかせではいけない、ということがよくわかりました。そのために必要なのは、科学的、客観的な情報と事実ですね。土壌学の権威、筑波大学の田村憲司教授をお迎えして、放射性物質と土について、しっかり教えていただきましょう。家庭菜園を続けるべきか、悩んでいる方、どこの野菜を買ったらよいか、悩んでいる方など、どんな方でも、大歓迎です。

小網代の森と干潟を守る会の会員とその同伴者のみ参加できます。

日時　：　平成 24 年 1 月 21 日（土）　14 時（13:30～受付開始）
場所　：　三浦市南下浦市民センター　講堂
申込み　：　ハガキ　〒143－0015　大田区大森西2－13－14　ハイツ大泉101
　　小網代の森と干潟を守る会　広報担当：橋　美千代
　　FAX　　03－6404－6263
　　ハガキ・FAXとも、**1.会員氏名　2.住所　3.連絡先　4.人数**、を明記してお申込み下さい。
資料代　：　200 円
持ち物　：　筆記用具

会員便り

グッズをご提供いただきました

盛野　雅子さま

会員便りへ近況をお寄せ下さい

やっちゃった！失敗談とか、ちょっと自慢したいことや、お子さんの様子、おすすめの本やスポット、クールビズやウォームビズのナイスなアイディアなどなど、なんでも投稿をお待ちしています。

・ 電子メール　ｋｏｈｏｕ＠ｋｏａｊｉｒｏ－ｈｉｇａｔａ．ｃｏｍ
　またはハガキで〒143-0015　大田区大森西 2-13-14 ハイツ大泉 101
　　小網代の森と干潟を守る会
　　広報担当　橋　美千代

小網代の森と干潟を守る会の活動

9/4　スタッフ会議

9/17　つうしん NO.120 印刷発送　横須賀市民活動サポートセンター

9/18　新ホームページ OPEN

10/8　スタッフ会議

10/15　NPO 応援　ココボラ（悪天候により 10/16 に延期）

10/16　NPO 応援　ボランティアウオーク、定例管理作業

10/16　NPO 応援　ココボラ

10/18　NPO 応援　上飯田小学校小網代体験学習

10/18　NPO 応援　みどりの実践団体交流会

10/29　横須賀博物館フォーラム「三浦半島の干潟におけるケフサイソガニの分布について」参加

11/12　日本ナショナルトラスト協会臨時総会（山本）◇議事録署名人の依頼を請ける

11/12　スタッフ会

11/13　三浦みどりの市民会議（伸）◇三浦市の緑化予算請求 50％減とのこと

11/20　NPO 応援　ボランティアウオーク（鈴木清）◇参加者無しのためNPOの作業協力（川の生物調査、別荘裏の道の整備・通れる程度に刈り払い済み）

11/23　日吉キャンパス「気候変動・自然災害適応型都市とは」

12/2　詩集納品（伸）

12/3　第 107 回自然観察&クリーン　雨天のため中止（小倉、鈴木清、宮本、浪本）

12/3　キララ賞贈呈式（伸）過去の受賞者として現状説明と夏の観察ガイドを作成したこと、森の保全が完了したことを報告

12/3　スタッフ会議

ご寄付ありがとうございました

仲澤イネ子さま、小倉雅實さま、宮本美織さま

以上の方からご寄付をいただきました、ありがとうございます。

小網代詩人

小網代の表情（かお）

小網代は
こんなに表情を変えるものだったのか

保全への道を共に歩いている頃は
いつも　私たちにより添う
穏やかなほほえみを浮かべていた

この春　皆で森と干潟を守る会に改称したときは
突然手に入った自由に
訳も分からないまま有頂天になっていた

アカテガニが海をめざす時期には
勝ち誇った顔で深い緑に輝いていた
自分自身の価値に気づいたように

谷に木道を作る工事が始まった今
小網代はどんな表情をみせているだろう
新しい人間たちとつくる
未知の姿に心ときめかせているだろうか

小網代の様子が気がかりなのに
私は
森を見わたす干潟に向かう勇気がでない

冬景色

冬枯れの谷間
ふと　去りがたく
ふり返る
呼びかけたのは
風？

枯れ草のした
土の中で
次の春の光の中へ
出て行く夢をみている
生きものたち
今　森ごと
たくさんの命のゆりかご

葉裏のチョウの卵
土の中の
はさみをたたんだアシハラガニ
水底の落ち葉の下のヤゴ
みんな　小網代に抱かれて
ねむる

第二詩集「小網代の森を訪ねて」発刊のお知らせ

第一詩集「小網代　森・人・海の未来」を出してから 10 年。それは 21 世紀になって最初の 10 年であり、保全にいたるまでの 10 年でした。この間に出会った小網代の時々の様子を詩に切り取ってきました。息を呑むほど美しい小網代、総毛立つような残酷な小網代、心ほぐされる優しい小網代、、、もっともっと一緒に歩きたい森と干潟を、小網代つうしんでおなじみの絵描き達がそれぞれに筆をふるって挿絵を描いてくれました。つうしんではお見せできない彩色画を描いて、そこから生まれた詩も載せました。作者が小網代と巡り合ったきっかけをつづったエッセイを巻末に収録しています。今だから話せるこぼれ話を合わせてお楽しみください。

詩集　「小網代の森を訪ねて」
著者　詩　：中井由実
　　挿絵：鈴木清市　高橋伸和　浪本晴美　橋ちひろ

定　　価　：　700円（送料は別途160円）

ご 購　入　：　郵便振替で定価＋送料（1冊860円）を下記口座へお振込みください。（振込手数料をご負担下さい）

口　　座　：　00100-7-63549　　加入者名　中井由実

お問合わせ　：　メール　poem@koajiro－higata. com　中井 由実
　　電　話　03－5397－1376（留守番電話にお名前と電話番号をお話し下さい。のちほどご連絡をさしあげます）

小網代の森と干潟を守る会オリジナルカレンダー販売中

郵便ハガキとしても使える、写真入りのカレンダーです（数量限定）

頒価 500 円
送料 120 円
（複数部は送料が異なりますのでお問い合わせください）

お申込みは郵便振替で、通信欄に「2011 カレンダー」とご記入の上、定価＋送料を下記口座へお振込みください。（振込手数料をご負担ください）

口座 00260－4－21569
加入者名　小網代の森と干潟を守る会

干潟のゆりかごの小さな住人　その２

干潟の遊女は女神さま

ジポーリン菜穂子

潮の引いた干潟を歩いて、いろいろな形や色や模様の貝殻を見つけることは、干潟や海岸歩きの楽しみのひとつです。小さな小さな貝殻ですが、とてつもない海の大きさや広さを感じることができますよね。小網代の干潟では、よく見られる貝殻は、二枚貝ですと、ユウシオガイやヒメシラトリ。またまた、小倉さんに教えていただきました。ユウシオは、夕方の汐、でしょうね。拾って見せていただいた貝殻は、うすい色や濃い色のちがいはありますが、どれも、夕やけ空を映した浅瀬のようです。ヒメシラトリは、白い鳥が小さくなった感じ、でしょうか。名前を聞いて、貝殻を見ると、たしかに、白い鳥が、くしゅっとまあるくなっているようにも見えます。ゴイサギのことか、とも言われているようです。

貝殻を拾ってきて、すてきな貝を見せ合うのは、平安貴族も大好きな遊びだったのでしょう。西行にも貝拾いの歌があります。

風立たで　波ををさむる　うらうらに
小貝を群れて　拾うなりけり　　(『山家集』)

貝合わせのために拾ったと前書きがあります。こうして拾ってきた貝に和歌をつけて、貴族たちは、一番すてきな貝を競い合ったそうです。また、ハマグリなどの二枚貝のそれぞれの貝片に一対の絵を描き、かるたのように遊ぶこともしました。こちらは、貝覆いと言います。１８０組３６０対の貝をすてきな貝桶にいれていました。『源氏物語』から画題をとられることが多いようですが、日本が誇る歌人、藤原定家のご末裔の冷泉家では、お花の貝覆いが伝わっているそうですよ。江戸時代には、この優雅な貝遊びは、庶民の間でも人気となりました。武家ぶりの社会にあっても、公家ぶりは、一般家庭の中で息づいてきたのですね。当時、貝覆いの貝と貝桶は、大事なお嫁入り道具だったそうです。ハマグリのそれぞれの貝片は、お互いはぴったり合うのに、それぞれ、ほかの貝殻とは、合わないことから、夫婦相和を願ってのことだったのでしょう。

このハマグリの学名。メレトリックス・ルソリア (*Meretrix lusoria*) 。ラテン語です。ルソリアは、ゲームとか、遊び、などの意味。ヨーロッパに渡ったハマグリの標本が、貝覆いの貝だったから、というのは、有名な逸話ですね。さて、メレトリックスは？・・・なんと、遊女です。つまり、ハマグリの学名は、遊ぶ遊女。平安のお姫さまを見て、遊女だなんてね、ヨーロッパの学者さまってなァんにもわかってないわねェ。と言いたいところでしょっ。それとも、江戸の遊郭でも貝覆いが遊ばれていたってことの証左なんだってことでしょうか。いえいえ、どちらも違うようなのです。

時は宝暦。１８世紀半ばのことです。博物学者のリンネが、ハマグリの仲間の属名をヴィーナス(Venus)、つまり美と愛の女神としました。これにならい、レーディング

は、日本からきた貝覆いのハマグリをヴィーナス・ルソリア(*Venus lusoria*)　つまり、女神さまの遊び、と名付けたのです。貝覆いの貝が遊びに使われるものだとわかっていたのでしょうね。江戸では、その頃、通やら粋やら。浮世絵師、鈴木春信などが活躍していた頃です。しかし、しかしです。後にハマグリの仲間は、ラマルクによって、さらに細かく分けられ、ハマグリは、ヴィーナス属でなく、メレトリックス属となりました。下の名前のルソリアはそのままですから、つまり、女神の遊びでなく、遊女の遊び、という名前となってしまった、というわけなのです。

何にしても、ヨーロッパでは粋な名前をつけてもらっていたハマグリですが、ちょうど同じ頃、江戸では、妖怪の仲間に分類されていました。鳥山石燕という絵師が、妖怪画集『今昔百鬼拾遺』で、蛤のオバケを描いています。雨女、人面樹、女郎蜘蛛、こだま、河童、やまびこ、たぬき、などが妖怪のお仲間です(『鳥山石燕画図百鬼夜行全画集』角川ソフィア文庫 2005)。蛤が気を吐いて楼閣を出現させる、すなわち蜃気楼を作りだす、ということです。「そうはく(食)わなの焼き蛤」のシャレで有名な桑名のお隣、四日市も、蜃気楼の出る場所として、広重が蜃気楼を描いています。本当に四日市に蜃気楼が現れたのでしょうか。それとも蛤の産地とかけたシャレでしょうか。芥川龍之介は、鵠沼海岸に現れた蜃気楼のことを短編小説にしています(「蜃気楼」『河童　他二編』岩波文庫　2003)。こちらは確かに出現したようです。海水に現れる蜃気楼は、上空と海水面の空気の密度の差が大きいと現れるようですね。空に比べて、海水温度が低いときだそうです。鵠沼も同じ相模湾ですから、海水面の温度が低くなれば、小網代の干潟でも蜃気楼を見られることがあるでしょうか。黒潮が海岸から離れて蛇行するときでしょうか。

妖怪仲間の蛤、それでも、恩返しは忘れないようで。室町から江戸にかけて集められた『御伽草子』には「蛤女房」というのがあります。助けてもらったお礼に、毎晩、自ら出汁をとって、それはそれはおいしいお味噌汁を作ってあげたそうな・・・。もちろん、最後には、出汁を取っている姿(!!)を覗き見されて、海に戻っていってしまいます。 日本のおとぎ話には、こんなふうに、女の人が、最後には、自然界、現実を超えた場所に回帰するストーリーが多いですね。王子様と結婚してお城で末永く幸せに暮らす、というよりも。言ってみれば、女神とは呼ばないまでも、自然界の聖なる存在として描かれていますよね。

貝のおいしい具だくさんスープ、といえば、アメリカのクラムチャウダーでしょう。チャウダーは、煮込んで作る料理のことですね。ベーコン、玉ねぎ、ジャガイモなどといっしょに牛乳を入れて、クラムを煮込みます。クラムは、ハマグリやアサリではなく、ホンビノスガイ（メルセナリア属メリセナリア　*Mercenaria mercenaria*）だそうです。本美之主貝という字をあてるそうです。つまり、美の主、ヴィーナスのこと。

この和名は、この貝がヴィーナス属に属していたときに作られたものだそうです。なかなかの苦心の作ですよね。大アサリ、白ハマグリとも呼ばれるそうです。ところで、とっても幸せなことのたとえに、英語では、クラムを使い、「貝のように幸せ」（ハッピー・アズ・ア・クラム Happy as a clam!) と言います。もともとは、潮が満ちているときのクラムのように幸せ、という言い方だったそうです。敵からねらわれることなく、つまり、生活が満ち足りて何の心配もない、という意味に使ったのが始まりのようです。

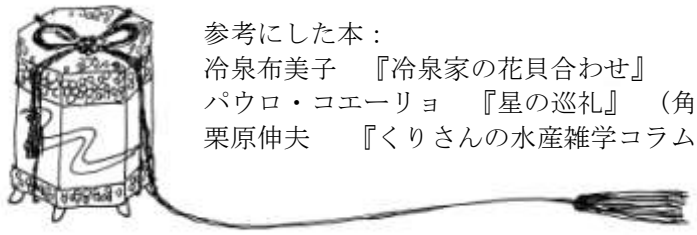
さて、ヴィーナスに貝、といえば、ホタテ貝からの誕生ですね。ボッティチェッリなどの絵画でおなじみです。ヨーロッパホタテ(*Pecten maximus*) というのだそうです。ヨーロッパでは、豊穣の象徴です。コキーユ・サンジャック(coquille Saint-Jacques) とも呼ばれます。フランス語で「聖ヤコブの貝」という意味ですね。ヤコブはイエス・キリストの十二使徒のひとり。この貝にヤコブの名前がついた理由は、いろいろ言われています。ヤコブは、弟ヨハネとともに漁師だったから。布教のときに、この貝を持ち歩き、水をすくって飲んだから。海で溺れそうになった騎士がヤコブの名前を唱えたら、奇跡的に助かり、その体にこの貝がついていたから。あるいは、この貝が豊穣、つまり、再生のしるしだから、とも。二枚貝の形からでしょうか。新しい命の誕生する象徴と見なされていますよね。

聖ヤコブは、スペイン語でサンアチアゴです。その聖地は、スペインにあるサンチアゴ・デ・コンポステラ(聖ヤコブの墓廟) 。そこに至る巡礼路は、ユネスコの世界遺産です。熊野の古道とともに、道が世界遺産となった珍しい例ですね。巡礼者の持ち物リストには、ホタテ貝が載せられています。バックパックにつけたり、首からさげたりして、目印にするそうです。最初は、記念にもらってくるものだったらしいのですが、巡礼者だとわかるように、最初から身につけるようになったそうです。サンチアゴ・デ・コンポステラは、大西洋のそばですから、巡礼の行き帰りに、ホタテ貝を食べたのかもしれません。今もたくさんの巡礼者が行き交いますが、行く先々で手厚くもてなしていただけるそうです。四国のお遍路さんと同じですね。

小倉さんからひとことまめちしき　＾０＾

Happy as a clam!

日本で見られるハマグリの仲間（Meretrix属）は魚屋さんでよく見るシナハマグリ、外洋の海岸（逗子海岸でも）で見られるチョウセンハマグリそしてハマグリの３種ですが、ハマグリは相模湾レッドデータでは消滅となっており、生きている貝は東京湾を含めてほとんど見られなくなりました。また中国から大量に輸入されるシナハマグリとの交雑もハマグリの消滅に関係しているようです。ホンビノスガイは魚屋さんでもたくさん見られ千葉県での漁獲も多いようです。東京湾のお台場や京浜運河でもたくさん見られます。この子たちはアサリが死んでしまうような夏の赤潮や貧酸素の海でも平気です。東京湾ではハマグリはいなくなりましたがホンビノスガイは元気いっぱいです。



参考にした本：
冷泉布美子　『冷泉家の花貝合わせ』　（書肆フローラ　2007）
パウロ・コエーリョ　『星の巡礼』　（角川文庫　1998）
栗原伸夫　『くりさんの水産雑学コラム 100』　（まな出版企画　2006）

『小網代の森の住人たち』好評発売中です！

読後のお便りもお待ちしておりま～す。

ご感想ありがとうございます。心より感謝！です。
ご本人のご承諾を頂いたもの、少し、ご紹介させていただきますね。

『小網代の森の住人たち』
著者：ジポーリン菜穂子
イラスト：浪本晴美
写真：松下景太
表紙作品：高橋伸和

本届きました！
ありがとうありがとう！

とても素敵な本でした！
小網代の森の仲間たちに対する愛がキラキラしてて、その様子がとても心地よいものでした。

私も行ってみたい～ いつかきっと行きます！

本当に良い本をありがとう！しばし森の中を散歩した気分でした。

（長野県佐久市うえはらあきこ）

とっても楽しく読みました！
夢を見て、外国や昔の時代を訪ねている気分です。
でも、気がついたら、森の中にいるような。
なんだか幸せな気分です。

（逗子市　野内真理子）

小網代の森の住人たち
著　者　ジポーリン福島菜穂子　　出版社　八坂書房
定　価　1500円＋消費税75円＝1575円　　刊行日　2011 年 6 月 25 日
変形 A5 判、144ページ　　ISBN978-4-89694-975-9
お求め方法：
① 小網代の森と干潟を守る会より購入すると　消費税分サービス　なんと1500円に！
■ 直接販売　観察会等イベントの際にお求めください。
■ 郵便振替　口座番号　00260－4－21569　（加入者名：小網代の森と干潟を守る会）
送料（1冊160円）を添えてお振込ください。送料を入れて1冊1660円になります。
振込手数料はご負担ください。おまけにポストカードをプレゼントいたします！
② 書店で購入・お取り寄せください。
③ アマゾン（Amazon.co.jp）他のオンライン書店でも購入できます。
お問合せ先：小網代の森と干潟を守る会　浪本　BYT00657@nifty.ne.jp

スタッフコラム

横浜市たちばなの丘公園

横浜市保土ヶ谷区と旭区に隣接する丘陵地帯へ、市内15番目となる総合公園「横浜市たちばなの丘公園」が平成23年10月5日に開園した。
一部を先行開園したもので、予定地域全てがオープンすると12．4haの広さである。JR横浜駅から僅か10キロの地点で、近くには県立保土ヶ谷公園もある。園内には男子と女子とバリヤフリートイレが設けられた。
横浜市の中心地から至近距離に、なぜこのような自然公園ができたのかというと、ここはかって大規模な火薬工場の跡地であったという。大正8年、浅野財閥系の日本カーリット株式会社の火薬工場として開設されたものである。

万一に備え緩衝林として広範囲に山林を買収したもので、今でも清流の谷戸や雑木林が残り貴重な自然公園となっている。土塁や頑丈なレンガ造りの工場跡地の遺構が残る。火薬工場は群馬県下へ移転したという。

遊歩道や木柵、また丘陵の底辺部には直径100メートル級規模の雨水を貯めるビオトープ池が用意されている。今後どのような生き物が育って行くのかじつに楽しみである。

この自然公園内の市沢、仏向の谷戸は貴重な都会のホタルの生息地である。近隣の人たちは、守る会を立ち上げ昔から大事に育て見守ってきた。わが家からも近いので、この夏6月には10回も出掛けている。目算で300匹以上も出現した夜もあった。

ところが、今年の最盛期に神奈川新聞が横浜市内最大級のホタル生息地であると写真付で紹介した。また市営地下鉄駅のポスターへも掲示された。それからというもの多数の市民、保育幼稚園児や小中学校生さらにホームのお年寄りまで車椅子で見物に来るような盛況である。

ライトを向けるホタルを捕らえる等見物のマナーも悪くなり、梅雨時なのに傘を忘れびしょ濡れという人たちも続出した。多少の雨でもホタルは出ていた。

小網代の森での経験から言えば、人とホタルの共存を願って、ホタルパトロールのボランテアの立ち上げはどうなのだろうか。大いに期待したい。さしずめ、ホタパトか。楽しくなりそうである。

祖父川精治

小網代　森と干潟つうしん　　NO.121

森も海も干潟も　奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111　神奈川県三浦市初声町下宮田　261-5
代表　高橋　伸和　　E-mail: info@koajiro-higata.com
URL: http://www.koajiro-higata.com
年会費:　一般会員¥1000　賛助会員¥5000（7 月～6 月　入会金不要）
郵便振替　口座　00260-4-21569　　加入者名　小網代の森と干潟を守る会

＊ 既に退会のご連絡をいただいた方にも年度末（6 月末）までお届けしております